

平成25年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

1 学校目標

- ・第2世代福医専として新たな10年、20年を踏み出す学校づくりに向けて常に学校経営理念を再認識し、より一層の教育力と協働意識を高める。
- 1) 情報の共有・協働の定着 2) 入学生180名の定着目標 3) 出席率98%以上、退学率8%以内、進級率・卒業率90%超
- 4) 国家試験合格率85%以上、年度内就職率100% 5) キャリアセンターとの連携を強化 6) 校友会組織的運営の協働促進
- 7) 地域貢献、国際化の模索研究および展開 8) 経費節減、5%削減の意図的促進

学校目標に対する評価・意見

- ・実績を数値化し具体化されている。その評価に基づいて数値目標が設定され明確化されている。
- ・現状に満足せず、常に未来志向の目標が新たに設定され評価できる。
- ・進級率・卒業率90%超を是非100%までいけるように頑張してほしい。
- ・教育成果で臨床能力等での実技の能力の報告があると理解しやすい。
- ・PDCAマネジメントサイクルに「S：観る」を加えSPDCAという視点が素晴らしい考えだと感じた。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1（教育理念・目的・育成人材像等）	4	3.8	3.8
基準2（学校運営）	3.8	3.8	3.4
基準3（教育活動）	3.8	3.6	3.6
基準4（教育成果）	4	3.6	3.4
基準5（生徒支援）	3.4	3.4	3.6
基準6（教育環境）	3.8	3.4	3.4
基準7（生徒募集と受け入れ）	3.8	3.4	3.4
基準8（財務）	4	4	4
基準9（法令等の遵守）	4	4	3.8
基準10（社会貢献）	3.8	3.6	3.6

3 今後の改善意見

- ・社会全体に対し介護福祉の専門性をアピールすべく取り組みを強化する。高校教員への認識を変える取り組みを検討してはどうか。
- ・ボランティアを経験することは今後にも役に立つと思うので、必要な調整・管理にも力を入れてほしい。
- ・国内だけでなく国際化を図る研究および展開をしてほしい。
- ・「文書能力」「コミュニケーション能力」向上への具体的取り組みを紹介するとよい。
- ・実習地での成績表を細分化し数値化すると臨床能力の成果が把握できる。
- ・単位認定は難しいと思うが、留年・退学者が減少するのではと思われる。
- ・ペーパーレスで講義をしている学校もあるが、具体的にどうしていくのか。

4 今後の具体的な改善方策

- ・愛知県介護福祉士養成施設協会校長会が、今年度低迷傾向にある介護福祉士志願者の増大をねらい11月9日中日新聞朝刊の11月11日介護の日に連動した紙面特集に「これからの日本の介護を支える人たち」と題して広告掲載（本校は広告協賛）したように、介護福祉士の活動の理解敷衍へ継続的取り組みを検討中である。
- ・ボランティア活動に関しては介護・理学・作業の各学科とも年間を通して依頼に応じ対応している。例えば今年の介護1年生において夏季のボランティア活動にはのべ138人が参加している。
- ・国際化については、9月4日台湾の新生医護管理専科学校において国際シンポジウムが開催され、本校の介護福祉学科科長と理学・作業療法学科科長が基調講演の講師に招かれ発表した。講演の内容はインターネット回線を利用して本校在学生在が同時生中継で聴講することにより学習意欲と効果を飛躍的に上げることに成功した。今後は学生の海外研修を検討。
- ・単位認定の導入については現在模索にある。専門学校の単位制導入は、平成24年4月学校教育法施行規則および専修学校設置基準の一部改正で生涯教育ならびに社会人の学びなおしの教育環境整備をねらいとして制定された。単位制導入にあたって、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な単位取得による教育課程の修了を可能にする一方、多様な授業科目の開設、ひとつの授業科目であっても複数の時間帯での授業の実施などが実行されねばならず、現行時間割編成で容易には実現し難い状況であることが分かっており工夫検討中である。
- ・26年度理学・作業療法学科の新入生にタブレット端末iPad miniを導入予定で、紙媒体での資料配布を減らした情報・資料提供のペーパーレス化を促進する。